

ポル・ポト派 17日から特別法廷

大虐殺 30年経て裁き

「現代史の狂気」といわれたポル・ポト派による大虐殺を裁くカンボジア特別法廷の審理が十七日から始まる。同派政権の崩壊から三十年、特別法廷の設置から三年近くを経てようやく開廷にこぎ着けた。審理の迅速性などの多くの課題を抱えてのスタートだが、被害者参加を通じて国民融和につながるとの期待も高い。

(バンコク・柴田建哉)



ポル・ポト派元幹部を裁くプノンペンの特別法廷

11月10日(共同)

被告は高齢 迅速審理が課題

今回、法廷に立つのは、

カン・ケ・イウ被告の一人だけ。一万人以上の政治犯が拷問、殺害されたとされるトゥールスレン収容所の元所長で、審理の対象も収容所での行為が中心となる。

特別法廷は、ほかにもポト派ナンバー2のヌオン・チア元人民代表議会議長ら四人を拘束しているが起訴には至っていない。負の歴史の多く一部が審理の俎上に載ったにすぎない。

「複雑な感情を抱いていても語れる人はこれまでに限られていたが、特別法廷が決まってから体験や意見を言える機会が増

それでも公開の法廷で

裁かれる意義は大きい。ポル・ポト政権発足時の人口七百万、八百万人で犠牲者は百万、二百万人。カンボジア国民の大部分が何らかの形で当事者でもある。家族を殺された遺族と手を下したポト派の元兵士が同じ村で暮らすこともある。

「複雑な感情を抱いていても語れる人はこれまでに限られていたが、特別法廷が決まってから体験や意見を言える機会が増

たにすぎない。

カンボジア特別法廷

ポル・ポト派は1975年にカンボジアの実権を握り、極端な共産主義政策に走った。政治犯の虐殺、知識人の粛清、都市住民の地方移住・強制労働などを行った。餓死、病死も含め犠牲者は100万、200万人。79年の政権崩壊後も内戦が続ぎ、98年にポル・ポト元首相が死亡し、99年に同派は壊滅した。

特別法廷は国連とカンボジアの合意に基づいて設置され、人道に対する罪や戦争犯罪でポト派元指導者を裁く。外国人とカンボジア人が裁判官を務める。二審制で最高刑は終身刑。捜査や起訴も特別法廷が受け持ち、2007年にカン・ケ・イウ元政治犯収容所長ら5人の身柄を確保。08年に同元所長だけ起訴した。



えた。大虐殺の罪を問うプロセスは国民融和に欠かせない」

特別法廷に詳しい国際人権団体「ヒューマンライツ・ナウ」(東京)の

山本晋平弁護士は、カンボジアの新しい国造りのための意義を強調する。

とりわけ重視されているのは被害者参加の仕組み。国際法廷で大掛かりに実施するのは初めてだ。告訴や意見陳述ができており、被害者感情をぶつける機会になる。

■首相の影を懸念

国民の三分の一が特別法廷の判決を不正と疑い、五分の一は特別法廷に汚職があるとみている。今年一月、カンボジ

アの地元紙にこんな記事が掲載された。

米カリフォルニア大人権センターが昨年九月にカンボジア全土で実施したアンケートを紹介したものだ。国民が懸念を抱くのはカンボジアに君臨するフン・セン首相の影を感じ取るからだ。

特別法廷は設置や審理開始の合意に至るまでカンボジアと国連の交渉が長引いた。国際人権団体は「フン・セン首相の妨害が「一因」と非難している。元ポト派も取り込んで権力基盤を固める現政

権について関係者は「特

別法廷で不利な内容が出るのを恐れている」と推測する。

拘束中のポト派元最高幹部四人は七十、八十代に達している。被害者や証人も高齢化している。罪を確定させるには迅速な司法手続きが必要だ。日本政府は、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の

開催を要する。東京地検元検事大倉元が、特別法廷の費用負担で国連最大の



ポル・ポト派の歩み

- 1975年4月 ● ポル・ポト派がプノンペン制圧
- 79・1 ● ポト派政権崩壊、内戦へ
- 91・10 ● パリ和平協定
- 93・9 ● 新生カンボジア誕生
- 96・8 ● イエン・サリ元副首相が投降、その後恩赦
- 97・6 ● 政府が国連へ国際法廷の設置求める書簡
- 98・4 ● ポル・ポト元首相死去
- 99・3 ● タ・モク参謀総長拘束でポト派消滅
- 2004・10 ● 特別法廷の設置確定
- 06・7 ● 特別法廷が捜査開始
- 07・7 ● トゥールスレン政治犯収容所のカン・ケ・イウ元所長逮捕
- 9 ● ヌオン・チア元人民代表議会議長逮捕
- 11 ● イエン・サリ氏と妻イエン・チリト元社会問題相、キュー・サムファン元国家幹部会議長を逮捕
- 08・8 ● 人道に対する罪などでカン・ケ・イウ氏起訴
- 12 ● 刑法の殺人罪などでカン・ケ・イウ被告追起訴